

# 給食だより

2026年1月号  
柏市学校給食センター

小学生のみなさんは  
おうちの人と  
よみましょう。



## あけまして おめでとうございます



冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。

昔から「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」といわれてきたように、新年から年度末に向けては行事も多く、月日が流れるのを早く感じる時期です。風邪やインフルエンザも流行していますので、体調管理にはより一層気をつけて、1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

今年はうま年!

今年の干支は「うま」です。何事も「うまくいく」1年にしたいですね!



うまのように野菜を  
たっぷり食べよう!

野菜に含まれるビタミンは、  
身体の調子を整え、病気から  
身体を守ってくれます。



箸をうまく使いこなして  
きれいに食べよう!

和食と切り離すことのでき  
ない「おはし」。上手に使  
えるようになりましょう。



よく味わってうま味  
を感じよう!

よくかんで食事をする、  
食材のうま味がよくわかる  
ようになりますよ。



## お年玉はもちだった!?



お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないのでしょうか。

さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様（年神様）」にお供えした「もち」を、歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。



## 1月11日は鏡開き

鏡もちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災を願って食べる行事です。  
もちを小さくするのに、包丁など刃物を使うのは武士の「切腹」を連想させるため縁起が悪いとされ、木づちや手で割ります。また、「割る」ではなく「開く」という縁起の良い言葉が使われます。

1月13日の給食には白玉餅を使った「白玉雑煮」が出ます。



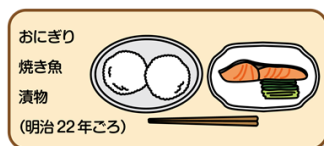


1/24～1/30は  
「全国学校給食週間」です

# 日本の学校給食のあゆみ

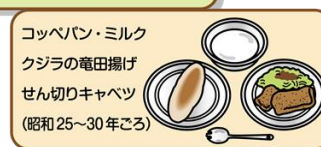
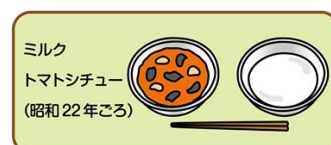
## 学校給食の始まり

明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、昼食を用意できない子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校はお寺の中にあつたため、僧侶たちが托鉢（たくはつ）でいただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



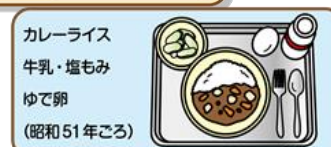
## 支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受け、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



## バラエティー豊かな献立内容に

昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。



その後、平成から令和になり、和食献立を中心とした中で、地元や国内各地の特産物をいかした郷土料理や、諸外国の料理なども取り入れられるようになりました。給食の時間が子どもたちにとって有意義な食体験の場になるよう、献立内容も日々研究されています。

★この期間の給食では、小学校6年生や中学校2年生が家庭科の学習で考えた献立や、千葉県の郷土料理「さんが焼き」が出ます。

阪神淡路大震災  
から31年

## 災害時の『食』を備えましょう

★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

